

● 乾 浩之 議員 ●

新型インフルエンザ流行前にして

問 今年4月にメキシコで確認された新型インフルエンザは世界的な流行となり、わが国でも集団感染や死亡例が増えています。今秋の本格的な流行を前に、感染した場合、中でも年少者、妊婦、高齢者、基礎疾患のある方々が重症化した場合、その対処法について関係機関とどのように連携するのでしょうか。

平岡町長 5月1日に新型インフルエンザ対策本部を立ち上げ、小・中・幼保の各施設での健康確認を実施し、町医師会にも対策本部への参画と助言、指導をお願いしております。今後の住民の皆様への感染防止対策としては、公共施設への手指消毒剤の配置、広報及び町ホームページで手洗い、うがいの励行、マスク着用、咳エチケットの徹底などの予防法の周知、予防講座の実施、マスクの配布及び備蓄を進めるなど抑止と感染対策に努めます。



災害への備えについて

問 地震や集中豪雨に被災された方々は生活再建するために、大変な苦しみを背負います。地域防災の立場から防災士の養成及び自主防災組織づくりが必要であり、町としてどのように対応されているのか。また、災害発生直後に必要な防災用具、食糧等の備蓄体制や消防の広域的連携についてお聞かせください。

平岡町長 「災害に強い人づくり」「災害に強い組織づくり」「災害に強いまちづくり」の3つの柱で町の防災体制の整備を進めております。「人づくり」では、現在27人の防災士を確保しており、「組織づくり」としては区長、自治会長に自主防災組織づくりを依頼しています。そして「まちづくり」では防災備品の備蓄へ防災倉庫機能を充実させます。また消防組合においても、県内の13消防組合と非常備村の全県一本化を目指した県消防広域化協議会を今年3月30日に設立し、消防広域化に向けた調査研究や将来ビジョンの策定などが検討され、災害に向けての取組がなされています。

● 山村美咲子 議員 ●

低炭素社会への広陵町の取り組みは？

問 ①広陵町地球温暖化対策実行計画の取組み、成果は？
②太陽光発電システムの普及について、住宅への設置促進に向けた支援は？
③食用廃油の回収についての考えは？

平岡町長 ①平成20年度から24年度までの5年間で、6%の温室効果ガスの排出量を削減する目標で、平成20年度では1.9%の削減、187.5トンの削減を行うことができた。町民の方に対しても、壁面緑化活動に対する町の助成などを行っていく。
②現在、「太陽光発電協会」からの補助金と、奈良県が実施している無利子融資制度の活用をお願いしている。町としても更なる取組を推進していく。
③奈良県農協広陵経済センターと読売新聞販売所で実施されているが、町をあげて取り組むためにも、より効果的な方法について更なる研究を行っていく。

生活改善・学力向上プロジェクトの取り組み、成果について

問 実施されて3年目になるが、学力検査及び生活習慣での成果は？

安田教育長 「生活改善・学力向上プロジェクト」とは、教育現場で、勉強への意欲が低く自信が持てない子ども、基礎体力が乏しくさまざまな健康障害を抱く子どもに対し、その主要原因のひとつである脳の前頭前野を、生活習慣の改善や授業での反復学習により鍛えることで成長を期待する仕組みのことであり、家庭・学校がそれぞれの役割を分担することで作り上げる必要がある、と言われている。各学校で「早寝・早起き・朝ごはん運動」を開始し、基本的な生活習慣の定着及び家族の対話やふれあいなどにより、人間本来の生体リズムを取り戻すことを目指した。全国学力学習状況調査の結果は、昨年の数値よりも全体的に向上している。

